

言語教育を通じての国際理解活動

～相手を理解し自分を理解してもらおう楽しさを学ぶ～

オランダ ロッテルダム日本人学校 寺本 博美



オランダの公用語はオランダ語ですが、オランダ人の英語に対する適応力は極めて高くヨーロッパで英語が（イギリス以外に）最も通じる国です。オランダ語を話せなくとも英語を話せば、生活はほとんど支障ありません。1985年に小学校の法律が変わり、小学校の5、6年生から英語が必修となりました。ケーブルテレビで、アメリカ（CNN）、イギリス（BBC）2局などが24時間放映されています。放送全体を通して英語の番組の比重が大変大きく、吹き替えをせず全部字幕ということもオランダ人があたりまえのように英語を話す要因の一つだと考えられます。第二言語のため比較的簡単な英語を使っていること、差別が少なく他民族や文化に寛容な国であることなどから、オランダは英語教育を行うにあたり大変恵まれた英語教育環境でした。

アメリカンスクールとの行事における交流
～ハローウィン～



ロッテルダム日本人学校は、アメリカンスクールと同居し同じ校舎の中で国際交流ができる環境にあります。シントニコラス祭、サンクスギビングデイ、国連デイ、ハローウィン、餅つき大会などの「行事における交流」、交流授業やインターナショナルスクールへの進学を視野に入れた体験授業などの「教科における交流」、特設クラブとアメリカンのAfter school activities とを合体させた「クラブ活動における交流」、学級活動、総合の時間、休み時間などに図書室や教室、またはプレイグラウンドで自由に触れ合う「学級活動における交流」などがあります。

アメリカンスクールとの交流授業
～日本文化の紹介～



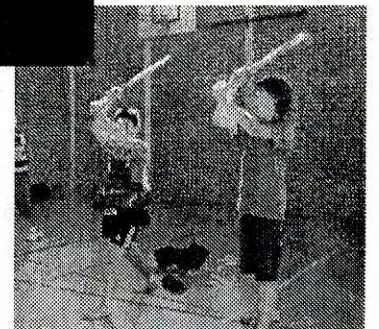
アメリカンスクールだけではなく近隣のセントローレンス校などの現地校、ドゥブルグミチル校などの養護学校やライデン大学などとも、積極的に交流・交歓活動を行っております。現地校の児童生徒も英語を第2外国語として話すので、交流活動ではアメリカンスクールの交流と同様に英会話能力が求められます。日本人以外との英語による交流活動は、言語能力だけでなく、実践的コミュニケーション能力を求められ、その能力を身につけることを前提として語学学習を展開しております。

セントローレンススクール交流 スポーツ交流・文化交流



第2言語を学ぶ
→英語に意欲

中学部では、学年別英語4時間で基本学習を、全学年英語1時間と能力別英会話週4回各20分で発展学習を行っています。全学年英語では交流活動での「使える英語」を意識し、まず基本知識を蓄える「インプット活動」を行い、次に自らが表現したい英文を頭の中で練る「アウトプットへの橋渡し活動」、そして実際に使ってみる「アウトプット活動」という流れで学習しています。



英語学習時間(週)	小学部						中学部		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
英会話(総合)	2	2	2	2	3	3	2	2	2
学年別(教科)							4	4	4
全学年(教科)							1		

